

日本福祉教育・ボランティア学習学会 学会ニュース

Japan Academic Association of Socio-education and Service Learning

No.81

2023年7月7日

発行

発行人：野尻紀恵 編集委員：熊谷紀良、松山毅、梅澤稔

〒981-0932 宮城県仙台市青葉区木町16-30 シンエイ木町ビル1F

[事務局：全国コミュニティライフサポートセンター(CLC)] Eメール jimukyoku@jaass.jp

一隅を照らす、オルタナティブ

副会長 松岡広路 (神戸大学)



第28回こうべ大会(2022)では、久々に多くの会員と対面で討議し、改めて、多様な研究・実践への構えとそれらが重なり合うことによって豊かに研究・実践コミュニティが広がる可能性を感じ取ることができました。まず、主催者のひとりとして参加者・関係各位に改めて厚く御礼申し上げます。

ふりかえると、先の研究大会のテーマは、<「持続可能な社会への変容」に福祉教育・ボランティア学習の実践と研究はどう呼応するのか>を問いとするものでした。いのち・地球の持続不可能性とSDGs(持続可能な開発目標)が喧伝される状況下において、福祉の根源的思想のひとつである「幸福追求のベクトル」は、鋭く変化することが求められています。近代産業社会またはその発展を前提とした幸福を実践の基盤・目標にするわけにはいきません。多種多様ないのちが自立・共生・連関する持続可能性の高い社会に適合し得るオルタナティブな幸福観との関係において福祉教育・ボランティア学習実践が展開される必要があります。

わが学会は、元々、近代が見落とし闇に葬ろうとしてきた社会問題に光をあて、否、そこにある未来への光を探り、人・コミュニティ・社会が変わる方法を具体的な教育・学習実践のなかで探究することを目的としてきました。見過ごされてきた一隅の幸福を探り、一人ひとりの生の豊かさを求めながら、あらゆる人の学びが重層化して社会が変わる動きに注目してきたといつてよいでしょう。社会のドラスティックな変容と根源の思想の転換が期待される今日、既存の幸福感を脱構築しようとする福祉教育・ボランティア学習のレゾナントル(存在価値)は、ますます高まっているように思われます。

こうべ大会以後、課題別研究においては、実践の技法に焦点を当てながらSDGs運動と居場所づくり・プラットフォームづくり実践の関係を問うセッションが続けられています。また、今期の新潟大会では、「豊かさ」を見直しつつ、共に生きることを実現する教育・学習に焦点があてられることになるようです。そして、2024年、来る学会設立30年の節目には、これまで学会で光を当ててきた諸テーマ(当事者性・いのちの持続性・メンタルヘルス・インクルージョン・食育・居場所・プラットフォーム・実践者論など)をめぐる研究・実践の到達点と今後の課題が、記念シンポや出版という形でまとめられることになりました。これからも、広範な実践・研究フィールドを俯瞰しつつ、一隅を照らしながら、福祉教育・ボランティア学習の研究・実践自体の変容を着実に進めていきたいものです。どうぞ、引き続き学会活動にご助力・ご協力いただきますよう、改めてお願い申し上げます。

新任副会長・事務局長・事務局次長 あいさつ

副会長 松岡 広路 (神戸大学)

多様な学会メンバーと共に、本学会のオリジナルな学習・組織論と思われる「当事者性学習論」の発展・構築をめざしたいと考えています。野尻会長、妻鹿副会長をはじめ、学会理事のみなさまに付いていながらも、同時に、一研究者、一実践者として、まだまだ頑張らなければ、と思っているところです。なお、「30周年記念事業推進担当」でもありますので、学会員のみなさま、どうぞご協力ください。よろしくお願い申し上げます。



副会長 妻鹿 ふみ子 (東海大学)



副会長を拝命しました妻鹿ふみ子です。機関紙編集委員長という役割に加えて「会長を支える」という重責を担うことになりました。学会運営に携わって、学会は研究活動を行うNPOなのだということに改めて気づきました。会員が支えてこそ学会活動は成り立つし、研究成果も出せます。学会にはさまざまな参加のチャンネルが用意されていますので、ぜひ一歩踏み出して学会活動への参加をお願いいたします。機関紙への投稿、大歓迎です。

事務局長 菱沼 幹 男 (日本社会事業大学)

この度、学会事務局長を担当することとなりました。この学会との関わりは1995年の設立総会からであり、当時は社協職員として参加し、大学院生となった1998～2000年には、学会事務局員をさせていただきました。その後、事務局次長として事務局移転にも携わり、本学会に育てられてきた人生でもあります。支えてくださった方々へ恩返しができるよう、学会活動の発展に向けて尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。



事務局次長 大石 剛 史 (国際医療福祉大学)



この度、事務局次長に就任いたしました大石剛史と申します。
私が本学会に初めて関わったのは27年前の学生時代です。所属していた大橋謙策ゼミの学生の一人として、1996年の第2回東京大会の運営に関わりました。手作りの看板をゼミ生みんなで作ったことを思い出します。
それから約30年の歴史を積み重ねてきた本学会の事務局次長という役割を担わせていただくことは光栄でもあり、また責任の重さを感じております。皆さまのご指導・ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

学 会 課 題 別 研 究 報 告

「語り」をめぐる福祉教育・ボランティア学習の可能性

本課題別研究は、岡多枝子会員、奥山留美子会員、川田虎男会員、小林洋司会員、菱沼幹男会員、松本すみ子会員、三ツ石行宏会員の7名が世話人となり、月1回のペースで研究会を開催し、福祉教育・ボランティア学習における「語り」について研究を進めている。本課題別研究は、今年度（2023年度）で3年目をむかえる。1年目の一昨年度（2021年度）は、全国大会（埼玉・オンライン大会）で報告したように、「語り」の先行研究を整理し、研究課題を浮き彫りにして、また福祉教育・ボランティア学習における「語り」の位置づけについて検討してきた。



「2022年度こうべ大会での課題別研究報告」

2年目の昨年度（2022年度）は、全国大会（こうべ大会）で報告したように、次のように大きく2つの方向から研究を進めてきた。1つは、福祉教育・ボランティア学習における「語り」の実態調査である。福祉教育・ボランティア学習における「語り」の実態調査は2つある。すなわち、本学会会員を対象とする調査と、福祉系高校教員を対象とする調査である。前者は、当事者の「語り」による福祉教育・ボランティア学習プログラムを展開している学会員を対象としたインタビュー調査である。後者は、福祉系高校教員へのインタビュー調査を通し、教育現場で実践されてきた「語り」の学習効果を可視化するとともに、媒介者としての教師に焦点を当てて「語り」の実状と課題を探るものである。

もう1つは、個別テーマである。個別テーマは「メンタルヘルス」「災害」「ハンセン病」の3つのテーマを設定している。「メンタルヘルス」は、精神障害者に対する社会的排除の大きな要因であるスティグマの低減に向け、効果的な介入方法を研究するものである。「災害」は、震災学習において語りを聞いた者が次の「語り手」に変化していくプロセスに注目し、その構造について明らかにするため、被災体験の語りを聞いた大学生が次の語り手になっていくプロセスを調査するものである。「ハンセン病」は、ハンセン病問題における「語り」が、どのような現状にあり、どのような役割を担っているのか、またその課題は何であるかを整理したうえで、「語り」の実践と当事者性の関係について検討するものである。

最終年度にあたる3年目の今年度（2023年度）は、上記2つの方向からの研究をさらに深めている。全国大会（にいがた大会）での課題別報告に臨むにあたり、冒頭に挙げた7名の世話人で7月に事前合宿を行い、研究を深める予定である（文責：三ツ石行宏）。

研 究 活 動 費 助 成 報 告

2022年度北海道福祉教育・ボランティア学習セミナーの実施報告

1. はじめに

北海道福祉教育・ボランティア学習セミナーは、2019年11月23日・24日に北海道札幌市で開催された、日本福祉教育・ボランティア学習学会第25回北海道大会の実行委員会メンバー有志により企画実施されました。セミナーの開催目的は、北海道内の福祉教育・ボランティア学習の学び合いの機会創出と、福祉教育を推進していくためのネットワーク形成、協同実施のできる継続的なプラットフォームの構築です。2022年度は学会の研究活動費助成を受け、セミナーを開催いたしました。

2. セミナー概要

本セミナーは2022年10月と12月の全4日間のプログラムで、会場参加とオンラインのハイフレックス方法にて開催し、延べ41名の参加者がありました。

第1回目セミナーは、10月19日、20日の2日間で実施。

「福祉教育とは何か～共に生きること、共に学び合うこと～」をテーマに、講師に原田正樹氏（日本福祉大学社会福祉学部教授）、話題提供者に、名寄市社会福祉協議会小笠原志朗氏に登壇を頂きました。参加者は20名参加（対面10名、オンライン10名）がありました。



第2回目セミナーは、12月15日、16日の2日間で実施。「福祉教育の実践と事例～福祉教育が育む共生社会～」をテーマに、講師に野尻紀恵氏（日本福祉大学社会福祉学部教授）、話題提供者に、北海道民生委員児童委員連盟馬川友和氏、半田市社会福祉協議会松本涼子氏にご協力をいただきました。参加者は21名（対面12名、オンライン9名）でした。

3. 活動の成果

講師からの話題提供、並びに参加者同士の学び合いにおいて、福祉教育・ボランティア学習の要素を丁寧に整理する学習の場を設けることができました。このように、福祉教育・ボランティア学習の実践の「あり方」について協議する機会の提供は大変貴重であり、参加者からは「普段の社協業務でおこなっていることが、事業の枠組みを超えて『福祉教育』につながっていると感じた。」などの感想に合わせ、セミナーの継続的な実施を求められました。なお、ハイフレックス開催での実施は運営準備が大変困難を極めますが、コロナ禍の中、かつ、北海道内の移動困難、宿泊問題をクリアする上で、大変貴重な実施方法であったと思います。計画した実施時期、頻度、時間などは参加者から好評でした。

4. 今後の活動計画

北海道の福祉教育とボランティア学習を学び合う会では、継続的な学習の場を定期的実施することを確認しています。2022年度の各回セミナーにおいては、全国社会福祉協議会が主催する、福祉教育推進員研修を受講した関係者と、学会員の合同のミーティングの場を意図的に設けました。この丁寧な“つながり作り”を大切に、2023年度もセミナーを計画しています。会員皆様のご支援を宜しくお願い申し上げます。

北海道の福祉教育とボランティア学習を学び合う会
代表 坂本大輔（登別市社会福祉協議会・特任理事）



2023年度北海道福祉教育・ボランティア学習セミナーのご案内

<https://wellbedesign.jp/socio/2023fukushi/>

※会場は札幌市ですが全国からオンラインでも参加できます。

Information

■第29回新潟大会について

第29回新潟大会は、2023年11月4日（土）～5日（日）に新潟ユニゾンプラザを会場として開催します。開催要項の郵送は行わず、今後、大会ホームページに掲載します。ホームページの開設時に、学会運営システムのメールにてURLをお知らせします。プログラムの詳細や自由研究発表のエントリー方法等については、各自ご確認ください。また、宿泊については、各自早めにご予約ください。

■研究紀要への投稿について

研究紀要の発行は、年2回（6月・11月）です。
複数で執筆している場合、全員が学会員でなければ受理できません。入会審査は理事会で審議するため、未会員の共同研究者がいる場合、目安として投稿締切の2か月前には入会申請をしていただくようお願いします。

◎投稿締切 5月末、12月15日（当日消印有効）

【投稿（郵送）先】

大学図書出版

〒102-0075

東京都千代田区三番町 14-3 岡田ビル 4F

TEL. 03-6261-1226 FAX. 03-6261-1230

■学会監修誌「ふくしと教育」リニューアル

2023年度から誌面の充実をはかり、年4回（6月、9月、12月、3月）の発行となりました。福祉教育・ボランティア学習の実践や研究の促進、交流にむけて皆様の定期購読や周りへのご紹介をお願いします。

購入は、書店あるいは発売元の大学図書出版までFAXまたはメールでお申し込みください。

価格 1,210円（本体価格1,100円＋税10%）

年間購読料 4,840円（税込）



■学会費の納入について

本学会の会計年度は、10月1日から9月末日であり年会費は、毎年1月に口座引き落としを行っています。口座の変更等が生じた際には、お早めにお知らせください。

●編●集●後●記●

松岡副会長による、学会のレゾンデートルを問う巻頭言に始まり、新役員の抱負、課題別研究の進捗や研究助成事業の成果など、学会の積み重ねてきたものと今後の方向性について再認識いたしました。広報・アーカイブ委員として、学会員相互の情報共有と研究・実践の継続的發展に貢献できる仕組み作りに取り組んでいきたいと思っております。（松山）